令和６年度　豊川小学校　研究計画

１　研究主題

「対話をとおして自分の考えを練ろうとする子どもの育成」

２　主題設定の理由

VUCA の時代と言われる昨今、子どもたちは自己実現のために様々な知識や技術を身に付け、自分で考え発信し、他者と関わり合いながら生きていくための力をつけることが必要である。そのために教育は、子どもたちに何かを教えるにとどまることなく一人ひとりの子どもが信頼できる「コンパス」をもち、この予測困難な世界においても自信をもって自らを導いていくことができるよう手助けするものに変わってきている。このような時代を迎えるにあたり、学習指導要領に3つの資質・能力・を育成することが大切であると述べられている。

●生きて働く「知識・技術」の習得

●未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

●学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう人間性等」の涵養

本校の特色として、次の ２ つのことがあげられる。

・単式学級と複式学級の両方があり、1学級の人数は １ 人～13 人と少人数である。

・市教委からコミュニティスクールの指定を受けており、保護者や地域の声を直接学校運営に反映させたり、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行う地域学校協働活動が充実していたりする。

この2つの特色から、強みと弱みを考えてみる。

（強み）

・異年齢同士の協力的な態度を育てやすい。

・一人一人の存在感や役割を持たせやすく、リーダー性を育てやすい。

・自分たちで学習を進める場面があり、自主的、協力的な学習態度を育てやすい。

・地域主体の活動の中で学校では経験できないダイナミックな活動ができる。

・大人が個々に関わり、子どもの思いや考えを実現しやすい

（弱み）

・同調的な発言が多くなりがちで、多面的、発展的な考え方を育てる配慮を必要とする場合がある。

・友人関係が固定的になり、思いや考えを言いにくくなりがちである。

次に本校児童の実態について述べる。令和5年度学校評価の児童の結果からみると、様々な人と関わり合うことができる（肯定的回答95%）自分でやりたいことを決め、人と一緒に活動を楽しむことができた（肯定的回答95%）自分の考えを持ち他者に分かるように説明をしたり、他者の考えを聴いたりできた（肯定的回答87%）自分や友だちの良さや苦手さを理解して関わる（肯定的回答87%）であった。この結果から子どもたちが地域の人と一緒にする活動や自分の願いを地域の人と関わりながら実現していく活動の中で、「やりたい」という気持ちが生まれてくる児童や、人と

の関わり方を学びつつある児童が多いということが分かり、このことは本校児童の強みともいえる。一方、学校評価の達成状況の記述からは地域との交流で見守っていただける大人との関係は積極的になってきているが校内での学年間での関わりは広がりが不十分、自分の考えを伝えることに比べ他者の言葉を聴き、自分の考えや行動につなげていくことが苦手な様子が見られる。、他者の考えを聴く力が弱いなどの課題が上がった。また、昨年度の研究の振り返りでも対話の中で自分の考えを分かりやすく説明する児童は増えたが、友だちの意見を聴く力が弱いということがどの学級にも共通した課題であった。

このような児童の実態を踏まえ設定した研究主題を次のように解釈し研究を推進していく。

まず**「対話」**は次にように定義づけた。

「教材との対話」・・・問題、教具など自分なりにどう読み取り、操作しながら、疑問やそれを解く方法を考えようとすること。

「他者との対話」・・・自分なりの納得解を得るための他者とのやり取り。

「自分との対話」・・・学習の中で自分が何をどう学び、何をどう生かしていくか学んだ軌跡を表現すること。

次に**「自分の考えを練る」**ということについては、次のように考えた。

自分の考えを持ち、対話の中で他の人の考えと比べて聴きながら自分の考えを確かめ表現すること。

3　めざす子どもの姿

対話をする姿

○ **「教材との対話」**

Ⅰステージ：見る、聴く、触る、操作する等の行動

↓

Ⅱステージ：発見（特徴～目立つ点・長所や短所、疑問）

↓

Ⅲステージ：自分のやりたいことが湧き起こる

○ **「他者との対話」**

相手に自分の考えを分かりやすく伝えようとする姿

・質問ができる

・タブレット（ノート）を見ながら一緒に話す

・指さしながら話す

・分からないが言える

相手の考えや思いを聴く姿

・相手の方を見て聴いている

・うなずきながら聴いている

子ども同士がやり取りをしている姿。（誰かが話すのではなく誰もが話している。）

・聴いて反応している「なるほど」「そういうことね」「どういうこと」
・聴き返している

○ **「自分との対話」**
・何をどう学んだかをふり返ることができる。
・学びを自分の生活の中の出来事と繋げて表現できる。
・学びを次に自分がやりたいことに繋げて表現できる。

自分の考えを練る子どもの姿

・比べる～自分の考えと比べて聴く（違い・同じ・似てる）
・確かめる～聴いて自分の意見を確かめる。（意見が変わる、変わらない）
・取り入れる～真似したいことを見つけ、やってみる。人の意見に付け加える。
・試行錯誤～何度もやり直す（書（描）き直す。作り直す。考え直す。）
・工夫～もっと善い効果が出る方法はないか。
・共有化～他者に伝わるプレゼン（言葉＋写真・図・模型等の視覚刺激）

4　研究の目的

対話をとおして、自分の考えを練ろうとする子どもを育成するための支援の在り方や方法を明らかにする。

5　研究の手立て

対話をする児童の育成のための手立て

（1）自分の考えを安心して言える雰囲気のある学級経営
①子どもどうしが認め合ったりほめ合ったりする活動設定
（2）子どもの言葉が教員の言葉より多くなる授業展開
①子どもの言葉を繋ぐ支援
②グループやペアで話す時間設定
③質問し合う機会の設定
④根拠を含め話す意識の向上
⑤「どうしてそう思うのか」自分に問う時間の設定
（3）自分で道具を選ぶ力をつける
（4）ホワイトボード、タブレット、ノートの効果的利用
①情報を記録する
②考えをまとめる
③他者に伝える
④学びの軌跡の保存

（5）学級活動の話し合いにおけるスキルトレーニング

自分の考えを練る児童の育成のための手立て

（1）児童の興味関心を湧き起こすひと・もの・活動のある課題設定

（2）単元のめあてや活動を子どもが決め、学びスタート

（3）何をどのように学んだか、次は何をしたいのかを表現する場面設定

（4）子どもの学びを価値づける大人のかかわり

6　研究計画

①研究概要の共有化（4月）

②授業の重点が伝わる指導案の様式の改善（通年）

③めざす授業像と研究協議の視点の共有化（6月）

④第1回学校評価の実施（6月中旬）

⑤1人1公開授業・研究協議の実施（7月～12月）

⑥第2回学校評価の実施（10月）

⑦⑥の結果を踏まえた研究計画の見直し（10月）

⑧第3回学校評価の実施（1月末）

⑨今年度の振り返りと次年度の計画立案（2月）

7　研究組織

研究推進の場
校長・教頭・研究主任

⇔

全職員協議の場
研修職員会

⇔

授業実践と振り返りの場
一人一授業と授業研究

8　研究成果の検証方法

・授業研究

・学力調査

・学校評価